

事業成果報告書

1. 事業概要

本報告書は日本体育大学と幕別町との自治体連携協定に基づいて行われた委託研究の成果を記したものである。幕別町は、これまで8名のオリンピックのほか、プロスポーツ選手を多く輩出しており、「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」を展開している（幕別町教育委員会，2021）。2008年から2018年の10年間でオリンピックに出場した選手は5名であり、同規模の市町村と比べると、多くのオリンピックを輩出している。さらに未来のオリンピックとして期待される選手も多い。これほど多くのオリンピックやプロスポーツ選手を輩出している背景には、幕別町が有している環境や行っている取り組みが存在しているだろう。「幕別町」を地域ブランドとして確立するための資源のひとつである“オリンピックの輩出”を促進するには、どのような取り組みや環境が有用なのだろうか。

はじめに

「オリンピックのまちづくり」を進めるにあたり、幕別町は2019年に日本体育大学に対して委託研究を提案し、本研究課題を始めるに至った。オリンピックの輩出要因というテーマのもと3つの調査研究を実施した。本報告書は、2021年度から開始し、2023年度に完結した「オリンピックの輩出要因」の報告である。

2. 研究プロジェクト

「オリンピックを軸にした持続可能なまちづくりに関する調査研究
—プレイス・アタッチメント（場所愛着）の醸成とオリンピック輩出の要因分析—」

3. 研究プロジェクト概要

「幕別町」を地域ブランドとして確立するための資源のひとつとして、多くのオリンピックを輩出していることが挙げられる。本プロジェクトでは、この特徴を活かした持続可能なまちづくりに関する調査研究を行い、プレイス・アタッチメント（場所／地域愛着；以下、地域愛着）の醸成とオリンピック輩出の要因について検討することを目的とした。全国を対象とした大規模調査（調査①）や、幕別町ならびに幕別町と同規模の市町村を対象とした調査（調査②）を実施し、地域愛着醸成までの過程や地域愛着等に関する幕別町の特徴を明らかにする。また、幕別町出身オリンピックへのインタビュー調査（調査③）を行い、地域愛着およびオリンピック輩出の要因について検討する。

4. 組織体制

メンバー	所属・職位	専門分野	役割分担
◎齋藤 雅英	スポーツ文化学部	臨床心理学	計画・内容の検討

	准教授	スポーツ心理学	全体統括
相川 聖	期限付一般研究員 関西学院大学 助教	スポーツ心理学	調査①
堀 彩夏	期限付一般研究員	臨床心理学 スポーツ心理学	調査③
浦 佑大	IPU・環太平洋大学 助教	生理心理学 スポーツ心理学	調査②
岡部 康成※1	帯広畜産大学 准教授	リスク心理学	内容の検討

◎プロジェクトリーダー

※1 現地研究協力者

5. 研究実施スケジュール

2020年度 研究協力者との事前協議ならびに研究組織の構成

2021年度 調査①の実施、調査③に向けたプレインタビュー

2022年度 調査②、調査③の実施

2023年度 各調査結果の分析および成果報告

6. 期待される成果

- ・調査①により、既存の地域愛着の形成から市民参加の促進について、地域スポーツへの関与を含めたモデルを構築する
- ・調査②により、地域スポーツへの関与や地域愛着等について、幕別町と同規模の市町村と比較し、幕別町の特徴を明らかにする
- ・調査③により、幕別町出身アスリートが考える幕別町への愛着とトップアスリートの輩出要因を明らかにする
- ・オリンピックを軸にした町づくりに関する理論的基盤を明らかにする
- ・幕別町民の地域愛着やスポーツへの関与についての意識が明らかになる
- ・地域愛着の醸成やトップアスリートの輩出について幕別町の長所を活かした取り組みを提案することができる

7. 事業成果

オリンピックを軸にしたまちづくりを進めるにあたり、実際にスポーツがまちづくりに活用することができるのかという点を明らかにする必要がある。本研究では、住民自らが地域をより良くする行動である、市民参加を促進する地域愛着に焦点を当てた。地域でのスポーツの実施や地域のスポーツ施設、出身アスリートの存在を知ること、地域への愛着を醸成させることが明らかとなれば、地域スポーツへ関与することで地域への愛着が醸成され、

さらには市民参加を促進することができるということである。そこで、調査①では、全国で大規模なアンケート調査を行った。その結果、地域のスポーツイベントやスポーツ施設などが充実していることや地域出身のアスリートがいる（認知している）ことで、町の土地や集団、文化への肯定的な印象が高まり、地域愛着の醸成や市民参加の増加につながる事が明らかとなった。

調査②では、調査①の内容を幕別町および幕別町と同規模の市町村でアンケート調査を行い、幕別町とその他の市町村を比較した。その結果、同規模の市町村と比べ、幕別町民は地域に対する愛着が強く、土地および集団に対して肯定的な印象を抱いていることが明らかとなった。また、健康への関心が高く、幕別町のスポーツに関する取り組みが充実していると感じており、幕別町出身アスリートの認知度も高い。さらに、積極的に市民参加を行っているといえる。これらの調査から、幕別町では、スポーツに関する取り組みや幕別町出身アスリートの活躍がまちづくりに有用であるものと考えられる。しかし、これには幕別町出身アスリートの協力が必要であり、幕別町出身アスリート自体も増えることが求められる。

調査③では、幕別町出身オリンピックにインタビュー調査を実施した。その結果、幕別町出身アスリートは、公園やパークゴルフ、食べ物など都市環境や文化・産業、食・自然、町民との関わりから地域への愛着を醸成している可能性が示された。また、オリンピックならではの特徴として、応援してくれる人の存在を認識することが挙げられた。トップアスリートの輩出には、幼少期から幕別町の充実した公園やスポーツ施設、土地で運動遊びをしていることやマルチスポーツによって様々なスポーツの体の使い方およびスキルを獲得していることが関与しているものと考えられる。さらに幕別町出身アスリートの存在は、子どもたちの夢や目標の創出につながるだろう。

3つの調査から、幕別町ではスポーツイベントの実施や幕別町出身アスリートの活躍、交流が町民の運動習慣や子どもたちの目標創出につながり、まちづくりに有用であるものと考えられる。また、幼少期から夏季、冬季のスポーツを経験することや公園、スポーツ施設の認知、活用によって運動遊びを促進することがオリンピック輩出につながるものと考えられる。

本研究課題の成果については、2024年3月21日幕別町にて報告した。